

加古川市立氷丘小学校 学校だより13号 令和3年3月22日



学校評価号



～ 令和2年度学校評価について ～

本校の学校教育目標「人間性豊かな氷丘っ子の育成ー自ら学び辛抱強く努力する心豊かな子ー」を達成するために、この一年間、教職員一丸となって教育活動を推進して参りました。その教育活動の達成状況やその達成に向けた取組の適切さについて評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ることが、毎年実施している学校評価の目的です。

学校評価には、本校教職員による評価「学校自己評価」と、学校評議員の方々に行っていた「学校関係者評価」があります。昨年度と同様に、本年度も実践目標の中の「重点事項4項目」に絞って、学校評議員のみなさんに関係者評価を行っていただきました。その結果を保護者の皆様等に公表することで、学校の成果や課題の共通理解を図りながら、次年度の学校運営の改善の向上に努めたいと考えています。

【 学校自己評価・学校関係者評価 】 評価基準 (A:ほぼ達成 B:7割程度達成 C:5割達成 D:達成には遠い)

重点事項	児童に道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度・習慣等は育っているか。 1. 挨拶等の基本的な生活習慣 2. 社会の決まり 3. いじめを許さない態度	
学校自己評価	B	児童会を中心に市民病院や市役所に千羽鶴と贈呈する等、「心の絆運動」に積極的に取り組んでいる。また、毎朝の挨拶運動を実施する等の取組を行い、習慣化を図っている。ただ、コロナ禍において大きな声を出しにくいというマイナス要因もあって例年よりもしっかりと挨拶ができていない児童が多い。また、道徳心についても教科となった道徳の学習で思いやりの価値項目について重点的に取り組んだり、ローテーション授業を通して、多様な考えに触れる指導を行う配慮をしたりしている。2月には学校独自の「心の相談アンケート」を行うことを継続し、豊かな心の育成に努める。引き続き家庭と学校が協力して子どもの道徳的価値観を醸成していくことで、集団や社会のきまりを守る子を育むことに繋げていきたい。
学校関係者評価	B	急に長期休校になり、先生も子どもたちも初めての経験だったにも関わらず工夫して無事に乗りきれたことはとてもよかったと思う。学校だより等から先生方の細やかな指導の様子は伝わってくるが、コロナ禍により授業を参観する機会がなかったので、学習指導については何とも言えない。コロナウイルス感染拡大の中、教育方法が従来と異なって一人学びが多かった個人の思考力のアップに繋がったという側面もあるが、教員は今まで経験したことがないのに十分対応されていたと思う。コロナ以前の状況に完全には戻らない可能性がある。現在の状況に即した New Normal な対応が必要である。今後、オンラインでの授業を取り入れていくことが必要。また、人手不足については教育委員会との話し合いをもち解消を依頼する。授業時数や教師の研修時間等の確保も難しかったと思う。新学習指導要領が実施されている中で、今後どう時間を確保し、教師の指導力の向上や児童が自ら考えを伝え合うなどして、多角的な思考ができる子の育成に尽力していただきたい。
重点事項	各教科において、児童の基礎・基本の学力をつけることができているか。また、思考力・判断力・表現力を養う学習指導ができているか。	
学校自己評価	B	コロナ禍の中、話し合い活動を行うことができず、表現力を鍛える場の確保が難しかった。反面、一人学び等の時間を確保することができ思考力のアップに繋がった。また、研究テーマに掲げたように、学習内容の系統性を考え授業を行うことを心がけてきた。それにより児童の継続的な学びを保障できている。今後、新学習指導要領の実施に伴い履修内容の消化が大変になっているが、読み、書き、計算の基礎基本については妥協せず児童が習熟できるようにすることで職員が共通理解を図っている。本校の大きな課題である特別な支援を必要とする児童への手厚さの裏で、学習支援の手が不足しているという現状がある。全校的に対象児童をピックアップし、保護者と連携しながら補習する等の手立てを打つ。
学校関係者評価	B	登校時に見守り隊の方と挨拶を交わしているのを見る。「心の相談アンケート」に丁寧に取組まれていることはいいと思う。コロナ以前の状況に完全には戻らない可能性がある。現在の状況に即した New Normal な対応が必要である。児童の他の人への思いやりは登校時や千羽鶴の取組を見てもよくなっているように感じた。児童会を中心に行われた千羽鶴の贈呈は新聞等にも大きく取り上げられ子どもたちの大きな励みになったと思う。ただ、学校での出来事についての補足連絡が担任の先生によって差があるように思う。連絡帳に必ず返信がある先生、電話連絡がある先生、連絡帳を見たかどうかの押印が無い先生、様々である。規律ある生活を送るには日々の指導が大事であり継続して指導していただいていると思う。ほめて育てることも大切である。「ほめ言葉シャワー」等は継続して進めたい。今後も「考え議論する道徳」の授業を推進し、家庭と協力しながら道徳的価値観の醸成に取り組んでいただきたい。

重点事項	不登校傾向にある児童をはじめとする児童理解や支援は、組織的にできているか。	
学校自己評価	B	今年度は、担任が保護者と面談する機会が少なかった。希望する保護者に対しては全て対応してきたが、来年度は4月に教育相談の機会をもつ、7月に個人懇談会を実施する等の改善を行う。ただ、全く登校できていなかった児童が、ほとんど登校できるようになるなど成果が上がっている。引き続き毎月、児童支援対策委員会を実施したり、保護者との面談を複数の職員で行ったりして、学校全体で組織的に対応していく。これからも児童の変化やサインを見逃さず、未然防止に努めるとともに、関係機関とも密接に連携し手厚い児童支援を行う。さらに、保護者の悩みに寄り添い、心のケアにも注力するためにより一層、SAやSC等を活用する。
学校関係者評価	B	コロナ禍でなかなか学校が始められず先生方は歯がゆい思いをされたと思う。気になる児童や支援の必要な児童の情報共有や実態把握に努めておられ、成果が見えるようになってきている。不登校児童への対応で何人かの保護者が学校まで一緒に行かれている姿が見かけられた。親に付き添われている児童に他の児童が声を掛けられないか気になった。不登校はそれぞれ個別に原因が違うことも多く対応が大変だと思うが、家庭との連絡を密に取りよく支援していただいていると思う。改善の方策に「希望する保護者」とあるが、率先して希望する保護者は少ないのではないか。来年度は積極的に保護者と話す機会をもち、7月に予定されている個人懇談会の実施は是非お願いしたい。今後も保護者との信頼関係を大切にし、専門的な立場の方からのアドバイスを受け、相談体制や支援体制の充実を図っていただきたい。
重点事項	いじめの未然防止・早期発見・早期対応への組織的な取り組みは、機能しているか。	
学校自己評価	B	市内の痛ましい児童の自死を受け、数年前からいじめの未然防止・早期発見・早期解決の組織的な取組により、積極的に認知するようになった。例えば「学校生活適応アンケート」や「心の相談アンケート」を実施する等の具体的な対策を行っており今後も継続していく。今年度は、そういった取組もあり、特別支援学級在籍児童へのいじめも早期に発見し、保護者と連携し、学校として組織的に丁寧な対応を行うことができた。今後、未然防止を目指して、担任が人を思いやる心を育む指導を基盤に学級経営を行う、様々な立場の職員が連携して子どもたちの様子をよく見る、道徳教育を充実させる等の取組を行っていく。
学校関係者評価	B	加古川市内で起きたいじめの問題は大きく新聞でも取り上げられ保護者にとっても大きな関心事だと思う。いじめ防止を目指して先生方が頑張ってくださっていることは本当にありがたいと思う。家庭でも保護者が頑張してほしいと思う。合同補導会議で「問題を抱える児童自身や保護者から相談を受ける」と聞いている。アンケートの取組が相談しやすい環境をつくっていると思う。学校は勿論、家庭や周囲の人が気に掛けないとくならないことだ。話せる雰囲気や目を日頃よりつくっていきけるよう注意が必要だと感じた。いじめにあっている児童は必ずサインを出していると思われる。気を配ることで早期に対応できるのでは。日々のふれあいやアンケート調査、授業などにおいて、早期発見、早期対応に努めておられ、成果をあげている。心の相談アンケートについては、結果を保護者に報告してもらいたい。また、学校側の考えもあると思うが、認識の薄い保護者に対しての取組も考え対応いただきたい。今後もいじめ早期認知が大切であり、いじめ対策委員会の活性化を図り、未然防止に取り組んでいただきたい。



今回、「学校自己評価」と「学校関係者評価」の2つの「学校評価」で成果と課題が明確になりました。また、学校評議員の方々からは、学校運営についての提言もいただいております。令和3年度は、本年度の成果と課題、ご提言を踏まえながら本校の教育目標を達成するために、日々の教育活動をさらに充実させていきたいと思っております。子どもたちの成長のために、本年度ご尽力いただきありがとうございました。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

